



夢ある将来への計画

第2章 一人ひとりを大切にする教育と文化のまちづくり

近年の子ども達を取り巻く環境は、虐待や校内暴力、登・下校中の誘拐、犯罪の低年齢化など、様々な問題を抱えています。

人権教育や啓発を行い、人権を守り、人を愛することが犯罪を無くし平和な世界を創りあげることです。

平和な世界であってこそ、子どもへ愛情を注いだ教育ができ、人を信頼して信頼関係のある地域づくりができていくものと考えます。

「人づくりが町づくり」であり、次世代を担う子ども達が健やかに育つ社会環境を整えなければなりません。

近年の子ども達は、危険を回避する能力が低下してきているように思います。

中学生がガラスにぶつかり死亡した事故に象徴されるように、危険の程度を判断できずにいます。

子どもの周辺に潜む危険を全て取り去ることは不可能であり、自らが自分の身を守る事、相手の安全をも考えられる力を身に付ける事が大切です。自分を守り他の人を守る気配りが、人を大切にできる事につながります。

子ども達の遊びはコンピュータゲームが中心であり、有害図書にも囲まれ子どもたちの成長に悪影響を与えています。

また、情報の氾濫による悪影響も取り除かなければなりません。

現代の若者は精神的にもろさがあり、職場に馴染めない・鬱病になりやすいなどの傾向が見られ、人間関係がつくれず孤立し、人の命の尊さの理解も希薄になっています。

日常生活習慣の中にも問題が多いものと思われ、子どもたちが突然異様な行動や重大な過ちを犯すこともあり、その背景にある問題を見極めて、健全育成をどのように進めるかが大きな課題となっています。

子ども達が、忍耐や我慢、努力することを学び、善悪・倫理

といった道徳を身に付けるとともに、「生きるために働く」ことの重要性を学び、協調性を養って将来自立できる教育を進める必要があります。

社会が豊になった反面、与えられて育ち自分で働いて生きることができないなど、「生きる力を学べる町づくり」が必要となっています。

人を愛し思いやりのある人づくりと人権学習の推進により、あらゆる差別や偏見をなくし、高齢者や障害者が分け隔てなく、誰もが地域の住民として普通に暮らせることも大切です。

恵まれた自然環境や田舎社会であることを有利な環境としてとらえ、昔から田舎が持っていた、地域で助け合うという相互扶助的仕組みを活かして精神的なゆとりと豊かな心を創造し、老若男女や様々な職業、また、障害を抱える人たちが、地域で一定の役割を担い支え合う町でありたいと考えます。

保育園児等の乳幼児教育から学校教育までの一貫した教育環境の整備を進めるとともに、子供たちが国際感覚を身に付けられるように、海外研修・国際交流を積極的に進めて南部町を担うべき人材育成に努めます。

そして、食からの生活を改善して偏食をなくす環境を整備するとともに、スポーツ・遊びを通して健康な体をつくり、基礎体力が低下している現代の子どもたちの体力増強を進め、地域の文化や人との交流により健全な体と心を育成します。